

## ハルカスから茶臼山へ

年末にアベノハルカスへ行った。図書館も休みなので、17階のカフェで読書しながら景色を楽しんだ。ここから大阪の街並みを一望できた。天気が良く、生駒山や信貴山などの山並みも、はっきり見えた。生駒山は自宅から見るのと、また違った感じだ。

写真左の緑の一带は、天王寺公園や動物園、茶臼山である。動物園の先に見える通天閣界わい、とりわけ新世界・ジャンジャン横丁によく行くが、茶臼山はまだ訪れたことがない。寒風吹きぬける中、思い切って散策してみることにした。



大阪市立美術館からすこし行くと、茶臼山への「登山道」があった。あっという間に「山頂」に着いた。写真のように山頂は標高 26 メートルである。「大坂夏の陣配陣図」(大阪城天守閣所蔵)をじっくり眺めた。その横に細かな字で書かれた「真田幸村という人」という案内もあった。ここは 1614 年(慶長 19 年)の大坂冬の陣で徳川家康の本陣となり、翌 15 年(慶長 20 年)の大坂夏の陣では真田幸村の本陣となり、歴史ある山なのだ。



ひと時、大阪の歴史を味わって、茶臼山を下山した。「骨仏の寺」と



して知られる一心寺の横を通って、大きな通りに出ると、向こう側に安居神社が見えてきた。どこかで聞いた名前前の神社であり、道を渡って訪ねてみた。

木々に囲まれた境内に入ると、じっと前を見つめる真田幸村公之像があった。神社の宮司により「この銅像にお手をお触れ下さい。そしてその徳を授かって頂ければ喜ばしく思います」と書かれていた。境内には「真田幸村陣歿の旧跡」という案内もあった。— 元和元年大阪夏の陣に徳川家康は秀忠と共に大軍を率いて大阪城を攻めた。ここに於て大阪の兵は城の既に恃むべからざるを知って出でて戦い、五月六日幸村は後藤基次、薄田兼相等と大和口を防がんとして河内の片山道明寺に赴き、基次等が敗死したので殿軍となって伊達正宗の兵と戦い、翌七日は天王寺附近に松平忠直の軍を迎え奮戦したが、ついに当社境内一本松の下で戦死した。時に年齢四十九歳であった。当時の松は既に枯死したが、社殿復興を機に昭和二十六年四月二十四日これを記念して植樹された。

例年五月に幸村祭が盛大に行われる。

(2019年1月6日)